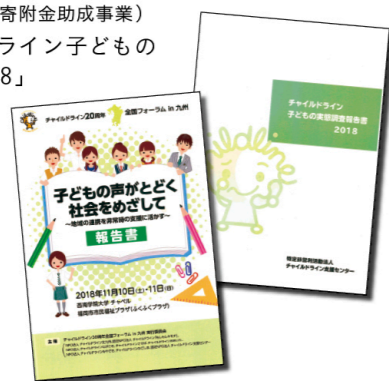




フォーラム報告書 & 調査報告書 が完成

「全国フォーラムin九州 報告書：子どもの声がとどく社会をめざして～地域の連携を非常時の支援に活かす～」(2018年度日本郵便年賀寄附金助成事業)
および「チャイルドライン子どもの実態調査報告書2018」(2018年度子供の未来応援基金助成事業)ができあがりました。ご希望の方は事務局までご連絡ください。



2019年度 主な事業予定

- 統一番号フリーダイヤルの実施
=毎日16:00～21:00
- オンラインチャットの実施
=毎週木曜日・金曜日16:00～21:00
- フリーダイヤル
夏の全国一斉時間延長キャンペーンの実施
=2019年8月22日～9月4日14:00～23:00
- オンラインチャット夏のキャンペーン
=2019年8月22日～9月4日16:00～21:00
- 子ども向け広報
=カード・ポスター配布
- 子どもの生きやすい社会の実現のための調査分析・提言活動 (順不同)

ご支援・ご協力 ありがとうございます

● 2018年12月～2019年4月のご寄付総額
5,739,891円

子ども専用フリーダイヤルをはじめ、チャイルドライン支援センターの活動は、多くの方のご支援で成り立っています。フリーダイヤル費用はもちろん、電話やチャットで届いた子どもの声をまとめ、社会に届けるために、年間2,000万円のご寄付が必要です。子どもたちの生きやすい社会を目指し活動するチャイルドラインへの応援これからもよろしくお願いいたします。
※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の控除をうけることができます。

子どもの生きやすい社会実現の ために ～虐待防止法改正に向けて～

児童虐待の防止等に関する法律の改正に向け、チャイルドラインとして子どもの権利を軸としてその対策がなされることを希望し、チャイルドライン支援議員連盟の馳(はせ)幹事長はじめ議員のみなさまへ、下記の提言をお届けしました。

- ◆ 親権者だけでなく何人も子どもに暴力(体罰だけでなく、言葉によるもの、態度によるもの、面前DVを含む)を与えてはならない
- ◆ 子どもの側に立ち、必要な支援につなげる「アドボケイト制度」がすべての子どもに保障されること
- ◆ 子どもや大人に向け、子どもの意思表明権を含む「子どもの権利」を軸とした人権教育が行われること

フリーダイヤル & オンラインチャット 実績



● フリーダイヤル (2018年12月～2019年4月)

2018年12月～2019年4月	当期	前年同期比
発信数	176,820件	+12,750件
着信数	71,314件	-4,195件
着信率	40.3%	-5.7%
平均通話	5分50秒	+40秒
総通話時間	6,937時間	+424時間

※NTTコミュニケーションズ トラヒック調査ツールより

● オンラインチャット相談試行 (2018年12月～2019年3月)

2018年12月6日～2019年3月31日	実施日数(29日間)	平均
訪問人数	9,218人	318人/日
チャット利用人数	3,059人	105人/日
対応件数	824件	28件/日
対応時間	33,140分	1,143分/日

※チャットシステム「Chamo」のレポート解析結果、およびチャイルドラインデータベースより

編集後記

◇子どもの痛ましいニュースが次々入ってきます。一方、元気に楽しく過ごしている子どもたちもたくさんいるのだ、と思います。どの子どもも安心してのびのびと自分らしく生きられる世の中であるためにはおとなの役割がとても重要だと感じます。いまおとながすべきことは何か、一緒に考えていきましょう。(T.T&S.M)



チャイルドライン®

巻頭言

チャイルドラインの目的と使命

～ガイドライン改定に寄せて～

チャイルドラインは、子どもと社会からの信頼を得るために2002年にガイドラインを策定しました。ガイドラインは、チャイルドラインに直接関わるすべての人が共有し、実践していくことをまとめたものです。その後も、社会情勢の変化や活動からの気づきを加える改定を重ねてきましたが、理念や大切にしていることは変わることなく、このガイドラインを基に20年間活動を続けてきました。

今回は、全国の実施団体からメンバーを集めたプロジェクトチームを編成し、活動に関わる人により分かりやすく、何度も読み返してもらえるガイドラインを目指して改定に取り組みました。活動の中でちょっと困った時や何でもない時など折に触れて読み返し、自分の関わりを振り返り続けることがチャイルドライン全体の質の向上や目的の達成につながっていくと考えます。

目的

「子どもの権利条約」の理念に基づき、子ども主体の「子どもの最善の利益」の実現を目指す

使命(1)

子どもの「声」を聴き、気持ちを受けとめ、寄り添う

使命(2)

子どもの「声」から気づいたことを社会に発信する

(ガイドライン2019年3月版より)

子どもにまつわる事件が起こるたびに、チャイルドラインの使命がまだまだ果たせていないことを痛感します。子どもに「チャイルドライン」を知ってもらうこと、アクセスしてくれた子どもの気持ちを受けとめ寄り添うことを丁寧に積み重ねていかなければならないと今あらためて思います。そして、一人ひとりがおとなとして、

社会の一員として何をすべきかを考えてもらえるよう、チャイルドラインに届く子どもの「声」を広く発信していく必要性を強く感じます。

子どもの「声」の背景には、「子どもの権利」意識の欠如を感じるものが多くあります。

【チャイルドラインの子ども観】

- 子どもはおとなと同様の権利を持っています
- 子どもはおとなと対等な存在であり、社会をともにつくっていくパートナーです
- 子どもをひとりの人間として、その主体性を尊重します

(ガイドライン2019年3月版より)

「子どもの権利条約」が国連で採択され今年で30年になりますが、日本ではまだまだ知られていません。「子どもの最善の利益」の実現は子どもの「声」を聴くところから始まります。チャイルドラインは、子どもの「声」を聴き、この条約の理念に基づいたチャイルドラインの子ども観が社会の子ども観となっていくよう、これからも活動を続けてまいります。

今後とも、皆さまのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



チャイルドライン支援センター
常務理事 関戸真紀



発行日：2019年6月10日
発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター(認定NPO)
〒162-0808東京都新宿区天神町14神楽坂藤井ビル5階 TEL:03-5946-8500 FAX:03-5946-8501
URL: https://www.childline.or.jp/ E-mail: info@childline.or.jp



チャイルドライン
child line
online chat
 オンラインチャット



試行を重ねて…
待望の事業化へ!

通信環境の変化や子どもからの要望を受けて、チャイルドラインがオンラインチャット相談の試行を始めてから3年が経過しました。2019年4月からは電話と並ぶ正式事業としてオンラインチャット相談の取り組みが始まりました。

試行実施中「文字表現の難しさ」「文字からの感情の読み取りづらさ」「<やさしさ><ぬくもり>をどう伝えるか」などについて、研修を重ねてきました。

一方、考えていることを書き出すという行為が「気持ちの確認や整理」となること、音声のない文字チャットでも子どもに寄り添うことが可能であること、「子ども自身のエンパワー」の支援につながるなどが認識できました。

また子どもからは「電話では、周りに聞こえてしまう」「電話では話づらい」「チャットで話して安心できたので、今度は電話をしたい」などの声も届き、チャットの必要性、要望の高さ、また、ハードルの低さを確認することもできました。

今年6月からは毎週木・金曜日の実施体制となり、現在、全国15団体が実施に参加していますが、残念ながら、すべての相談に対応できていません。子どもからの要望に応えるため、電話で培ったスキルをチャットでも活かし、今後も「子どもの心の居場所」としてチャット事業に取り組む団体が増えるよう協力体制の充実に努めます。

チャイルドライン支援センター理事
 オンラインチャット担当

水口良子



チャイルドライン オンラインチャット試行の歩み

- ◆2014年度
 電話以外のツールの模索として、オンラインツールについてソフト、ハード両面から検討開始
- ◆2015年度
 ●商用システム「Chamo Chat」使用決定（無償提供）
 ●1月16日17日 公開講座「子ども・若者のためのオンライン相談～イギリスの実践に学ぶ」実施
 ●第1回試行＝3月24日（木）～3月30日（水）
 ⇒ 対応件数：202件
- ◆2016年度
 ●8月29日（月）～9月9日（金）
 ●11月23日（水祝）～11月30日（水）
 ●3月13日（月）～3月20日（月祝）
 ⇒ 年間対応件数：446件
- ◆2017年度
 ●5月8日（月）～5月14日（日）
 ●8月29日（火）～9月6日（水）
 ●11月23日（木祝）～11月30日（木）
 ●3月14日（水）～3月21日（水祝）
 ※2017年9月より、月4回の定期的開設（木曜日、金曜日を交互に実施）
 ⇒ 年間対応件数：1,234件
- ◆2018年度
 ●2019年度正式事業化をめざし、オンラインチャット相談に関するガイドラインおよび研修プログラムの策定
 ●5月7日（月）～5月13日（日）
 ●8月29日（水）～9月4日（火）
 ●11月23日（金祝）～11月29日（木）
 ●3月4日（月）～3月10日（日）
 ※2018年6月より毎週木曜日と隔週金曜日実施
 ⇒ 年間対応件数：2,252件
 試行対象者：18歳以下の子ども
 開設時間：各回16時～21時
- ◆2019年度
 ●4月より事業化
 ●6月より毎週木・金曜日実施
 ●8月22日（木）～9月4日（水）
 夏のキャンペーン実施予定

NEW!

子どもの
 不安な
 気持ちを
 どのように
 受けとめるか



children just after holidays

チャイルドライン支援センター
 専務理事 高橋弘恵

今年はゴールデンウィークが10連休になりました。4月に学校の環境が変化してストレスを感じている子どもたちへの影響が懸念され、チャイルドラインにも多くの取材が入りました。また、チャイルドラインからも子どもとおとなそれぞれに向けメッセージを発信しました。

しかしチャイルドラインの現場では子どもの困りごとは特定の日に起きるのではなく、日常の中にあることが明らかです。

つまり子どもの悲しい事件を防ぐためには、日頃から話を聴ける関係を作っておくことが必要なのです。不安

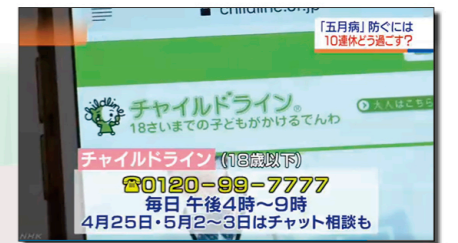
が小さいうちに丁寧に気持ちが聴かれ、自らエンパワーできるようになることこそ、子どもが問題解決に向かう一番の近道だと考えます。

おとなは子どもがネガティブな発言をすると「そんなこと言っちゃダメ」「なぜそんな風に考えるの?」と否定したり、問い詰めたりしがちですが、『今』の気持ちを肯定的に受けおめられることが、子どもにとって安心して気持ちを話すことに繋がります。子どもから信頼され、「あの人に聞いてもらおう」と思えるおとなが子どもの周りに増えることが望まれます。

メディア紹介（一部）

- ◎TV 4月22日取材対応
NHK いじめをノックアウト
 特集「どうすれば相談しやすくなる?」にて、「いじめられたときに、どんな相談手段があるのか」を調べた千葉県木更津市立岩根中学校の取り組みを通じてチャイルドラインが紹介された。
- ◎TV 4月24日取材対応
NHK 首都圏のニュース
 特集「連休明けの五月病を予防するには」
- ◎TV 4月25日取材対応
NHK 首都圏 NEWS WEB
 特集「連休明けの五月病を予防するには」
- ◎新聞 4月27日掲載
朝日新聞
 記事「連休明け登校 無理せずに」
- ◎WEB 5月4日掲載
withnews
 記事「あなたのかわりになるひとはいない—連休中の子どもたちへ—」

- ◎新聞・WEB 5月6日掲載
BIGLOBE ニュース 毎日新聞
 記事「茨城・中3女子自殺で教諭が暴言く殺すぞ—市教委が謝罪」
- ◎WEB 5月6日掲載
おたくま経済新聞
 記事「心に疲れがたまっていますか? 今からできる五月病対策」
- ◎WEB 5月6日掲載
弁護士ドットコム
 記事「GW明け、子どもの〈学校休みみたい〉は限界のサイン—自殺防ぐために親ができること」
- ◎新聞 5月6日掲載
毎日新聞
 記事「連休明けの子どもたちへ—〈悩み、誰かに話して〉〈休んでもいい〉」



「五月病」が心配されたゴールデンウィーク前後、さまざまなメディアで子どものSOSの受けとめ方について報道され、チャイルドラインも紹介されました。

- ◎WEB 5月8日掲載
朝日新聞デジタル
 記事「連休明けの子ども、SOSどう対処? 問い詰めは逆効果」
- ◎TV 5月10日取材対応
フジテレビ ノンストップ!
 特集「子供の友達関係 親の悩み」にてエピソードが紹介され、スタジオでもトーク展開。解決策のひとつとしてチャイルドラインが紹介された。